

笠ヶ岳へ

岩井 淑

新穂高温泉口から蒲田川左岸に沿い林道を歩くこと40分。ようやく笠ヶ岳への登山口となる。単調な林道歩きからいよいよ林間の登山道だ。途中、2ヶ所の草付きがあるが見晴らしのきかない林の中をひたすら登ることとなる。とにかく標高1500mの新穂高温泉口から2700mの杓子平までの標高差1200mを一気に登っていくのは、半端じゃあない。

笠ヶ岳は北アルプスにおいて孤高の位置を保っている。いわゆる縦走路から外れているためにミーハー登山者が訪れるのは稀である。笠ヶ岳は山好きな人が双六岳から抜戸岳を通して新穂高へ下り、温泉で疲れを癒した後、下山というパターンに繰り返される場合に登られる山である。従って今回のように笠ヶ岳登頂のみを目的とし、新穂高温泉口からのピストンというのは極めて稀であろう。

登りつめて4時間。抜戸岳南稜を抜けると一気に展望が開ける。思わずヤッターと声が出てくる。カール状になっている杓子平だ。抜戸岳の山稜には今も残る雪溪の脇には真黄色のシナノキンバイが輝きを増し、ハクサンイチゲの純白の花と競い合う。すばらしいお花畑が展開している。

新穂高温泉口から満たしてきた1500mlの水筒の水はすべて飲み干してしまった。その位の発汗量、運動量が杓子平までの登りのきつさなのだ。

雪溪から流れ出ている水をマグカップに受け取り、思いっきり喉で味わう。実に旨い。若干、草の根が入ったり、黒い砂のようなものもときたま混じるが冷たく旨い水だ。空になった水筒にも満タンに補充し、一休憩の後、いよいよ縦走路への登りとなる。同じ登りとはいえ林間を登っていた時とは異なり、すべてが見通せるので実に爽快である。

左前方に編み笠のようなスッキリした形をしている笠ヶ岳が孤高の姿を登場させている。その山頂までは杓子平からもあと2時間弱はかかるのだが、吹いてくる風も実に爽やかに感じられる。

笠ヶ岳山荘直下にテントを設営した後、山荘で手続きを済ませる。当然の事ながら、帰りには500mlの缶ビール2本をぶら下げてテントへ戻る。テント山行も久し振りだ。ビールを飲みながらの簡単な夕食にする。メニューはカレー、ソーセージ、ラーメン、である。一人なので周りの山々を眺めての夕食である。2本のビールを飲み終わった後はウィスキーの水割りを4杯飲み、怪しくなる空模様を尻目に早々とシュラフにもぐり込む。

テントを打つ雨音と雷鳴とイナビカリにうつらうつらの眠気から呼び戻される。テントの中で雨音と雷鳴を聞くのは10数年振りのことだ。雨足は急速に強まりポツポツとテントから雨が浸み出しはじめた。

笠ガ岳 西穂高岳登山計画書 94年

入山者：岩井 淑 (45)

住所：千葉市花見川区武石町 2-903 Tel 043-272-0825

7/25 (月)

新宿

22:00 奥飛騨・新穂高ルート (さわやか信州号)

7/26 (火)

新穂高温泉 岩小舎沢上部 草つき 抜戸岳南稜上 抜戸岳分岐

6:40
 7:40-----8:55
 9:05-----10:15
 10:25-----12:15
 13:00-----14:00
 14:10

笠ガ岳山荘 笠ガ岳 笠ガ岳山荘
 15:20 0577-34-4253
 15:30-----15:45
 16:00-----16:10

7/27 (水)

笠ガ岳山荘 抜戸岳分岐 抜戸岳南稜上 草つき 岩小舎沢上部

6:00-----6:50
 7:00-----7:40
 7:50-----8:50
 9:00-----9:30
 9:40

新穂高温泉 西穂高口駅 西穂高山荘
 11:00 0263-36-7052
 12:00-----13:00
 13:10-----14:40

7/28 (木)

西穂高山荘 西穂独標 西穂高岳 西穂独標 西穂高山荘 水場

6:00-----7:00
 7:10-----9:10
 9:30-----11:00
 11:10-----11:50
 12:30-----13:40
 13:50

西穂高登山口 上高地バスターミナル 新宿
 14:10-----14:30
 15:10-----20:10
 上高地ルート (さわやか信州号)